

私立 福岡医療短期大学

超高齢社会の就業力向上につなげる医療・福祉系学生の就職支援

取組期間	2009(平成21)年度～2010(平成22)年度
区分	就職支援推進プログラム
所在地	〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村2丁目15-1
設置者	学校法人 福岡学園

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

就職内定状況の低迷と早期離職問題は、専門就職の中での職域の広がりや職種の増加に伴い、医療・福祉系学生においても切実な問題である。さらに、超高齢社会を迎えた医療・福祉の職域において、就業力向上に繋がる就職支援は、高齢者の生活の質を支える資質の高い人材確保としての意義も大きい。本事業を通じて、医療・福祉を支える人材の就職支援態勢の強化を図るものである。

到達目標

本取組では、①医療・福祉系の学生個々の適正や能力に対応した、きめ細やかな就職支援を充実させるとともに、②地域の企業（職場）や職能団体等のニーズを反映した、卒業後の学生自らの就業力を向上できるキャリア形成を促進させることを目標として、A) 内定率の向上、B) 学生・企業（職場）間のミスマッチ就職の回避、C) 早期離職率の低減の達成を図ることを目標とする。

プログラムの実施内容

①各職域の専門的知識と勤務経験を有する就職相談員2名を配置し、学生個々の適正や能力に対応した就職支援を実施するとともに、②企業（職場）や職能団体（歯科医師会と介護福祉士会）等と連携したガイダンス・説明会の実施を通じて、個々の学生が企業（職場）等のニーズを把握し、自らの就業力を向上できるキャリア形成を促進し、就職支援の一層の向上が図られるものである。

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

学内では、どのような方法で周知徹底したのか。

(1) 教職員に対する周知方法：

本学では本事業の財政支援後の2011(平成23)年度も、学生が社会的・職業的自立につながる就業力とキャリア形成能力をしっかりと身に付けられるよう、本学学生の就職支援及び就業力支援事業の質的転換の重要性を確認し、学内組織体制を整えてきた。取組の基盤となる『就業力支援委員会』を設置するとともに、『就業力支援委員会規則』として必要な事項を定め、教職員に対する周知徹底を図るために、2010(平成22)年12月13日から施行している。就業力支援委員会は、学務・FD委員会とともに、社会的・職業的自立へ繋げる就業力育成教育の中心であり、学長を中心とするマネジメント体制の下に、教授会に対して活動実績の報告を行うとともに、教授会からは活動についての助言と指導をもらうことで、適宜教職員に対する周知徹底を図りながら、PDCAサイクルとしての活動の質の向上を図ってきた。

(2) 学生に対する学内周知方法：

取組を全学的なものにするために、学内掲示ポスターを作成し、教授会での了承の上で、効果的な学内周知の方法として活用した。同ポスターには、学生が率先して包括的な就職支援やキャリア形成支援を受けるように、取組の概要や年間スケジュールを掲載するとともに、担当教職員の顔写真や学生へのメッセージも合わせて掲載するなどの工夫をし、講義室内掲示板、学年ごとの学生掲示板、就業力支援員2名が常駐している就業力支援室の入り口などに掲示することで効果的な学内周知を図った。

2. 当該プログラムの成果

①自己評価は、どのような観点で行ったか。

(1) 学生からの評価：

・本事業及び 2011(平成 23)年度に実施したガイダンスやセミナーについての当該学生を対象としたアンケート調査による取組の有効性の評価(学生の意欲・満足度やニーズ、有用性など)

(2) 教職員からの評価:

- ・学内キャリア形成支援体制の質向上のために、全教職員を対象に実施した他大学有識者を講師とする『特別 FD 講演会』実施時のアンケート調査
- ・本学教授会における就業力支援委員会の活動実績等についての評価

(3) 学外有識者からの評価:

- ・本事業及び 2011(平成 23)年度に実施したキャリア形成に係る教育事業(『大学生の就業力育成支援事業』)についての外部有識者『評価委員会』における外部評価

(4) 修学状況・就職支援・キャリア形成支援についての評価:

- ・学生に対する教育効果(履修状況や履修態度、退学率など)
- ・学内教育支援体制への効果(就業力支援員による就職支援の状況など)

(5) 就職状況・キャリア形成状況についての評価:

- ・就職内定や就職率の向上と離職率の低減

②到達目標に達したか。

(1) 学生からの評価:

平成 23 年度に実施した i) 上記セミナー等の開催時のアンケート調査と ii) 通年の統合評価

アンケート調査については、学生の意欲・満足度やニーズ、有用性など、系統的なキャリア形成支援の教育成果を示すアンケート結果が得られた。

※ 当該アンケート結果は適宜教授会に報告している【資料 1】が、今回の添付資料には入れていない。

(2) 教職員からの評価:

- ・学内キャリア形成支援体制の質向上のために、全教職員を対象に実施した他大学有識者を講師とする『特別 FD 講演会』実施時のアンケート調査では、全学的な本事業に対する理解が深まるなどの肯定的な評価が得られた。
- ・本学教授会における就業力支援委員会の活動実績報告や協議事項については、全学的な本事業に対する理解や肯定的な評価に繋がっている【資料 1】。

(3) 学外有識者からの評価:

- ・本事業の質向上を目的とした『評価委員会』における、外部有識者による事業評価では、事業実績や成果について肯定的な評価が得られている。【資料 2、3】

(4) 修学状況・就職支援・キャリア形成支援についての評価:

○学生に対する教育効果(履修状況や履修態度、退学率など)

- ・キャリア形成支援に関する授業科目及びカリキュラムの参加者数が増えた。
- ・授業点検評価の中で、2011(平成 23)年度新入学生の履修態度と学習活動に対する意欲の向上が認められた。
- ・系統的な入学前教育と初年次導入教育カリキュラムを実施した 2011(平成 23)年度新入学生において、前年度学生と比較して修学態度も良好であり、また退学者も有意に減少した(2010(平成 22)年度は入学者 125 名のうち退学者 5 名、4% に対して、平成 23 年度は入学者 106 名のうち退学者 2 名、1.9%:2012(平成 24)年 3 月 31 日現在)。
- ・2011(平成 23)年度歯科衛生士国家試験の合格率は 3 年連続で 100%であった。本学では、『国家試験の合格は卒業後の専門就職としての就職支援』の一つとして位置付けており、キャリア形成教育の成果の一つとして評価できる。

○学内教育支援体制への効果(就業力支援員による就職支援の状況など)

- ・就業力支援員 2 名が常駐する就業力支援室を設置することで、就業力支援員と連携する教職員に対する進路相談の件数が増加したとともに、就職支援に関わるシステム(個別指導・面談等)を積極的に活用するようになった。

(5) 就職状況・キャリア形成状況についての評価:

- ・専門就職の前提となる歯科衛生士国家試験の発表(2011(平成 23)年度は平成 2012(平成 24)年 3 月 28 日)の時期との関連があるため、年度内の就職内定や就職率については、例年並みであった。また、離職率等については、当事業の支援を受けた卒業生を対象とした卒業後調査(卒業 3 年間等)として今後明らかにしていきたい。

③具体的な成果は何か。

本事業及び 2011(平成 23)年度に実施したキャリア形成に係る教育事業(『大学生の就業力育成支援事業』)【資料 4】の中で、就職支援とキャリア形成支

援教育の質的転換を目的として多面的な取組を推進し、以下の成果が得られた。

(1) 本学における就職支援及びキャリア形成支援事業の質的転換を図る基盤として、『就業力支援委員会』を設置し学内組織体制を整えとともに【資料5】、『就業力支援委員会規則』として必要な事項を定め【資料6】、2010(平成22)年12月13日から全学的な就職支援及びキャリア形成の取組を推進することができた【資料1】。

(2) 2012(平成24)年度入学生を対象とした、系統的な入学前教育と初年次導入教育の充実を図り、「職業観・労働観」や「キャリア形成の基本的展望」の涵養とともに、大学生活への適応支援と専門領域における早期教育の質の向上を図ることができた。

(3) 就業力支援員2名が常駐する就業力支援室を設置することで、就業力支援員と助言教員との連携による学生指導・相談・助言体勢の改善を図ることができた。さらに、他大学の外部有識者を講師とする全教職員を対象とした『特別FD講演会』を計2回開催し、他大学の先進的な取組事例を当該事業取組の改善に反映させることができた。

(4) 企業(職場・施設)等の第一線で臨地実習を実施することで、専門職としての就業力と汎用的社会人基礎力の習得支援体勢の強化が図られた。さらに、キャンパス内高齢者施設における臨地実習の中で、指導教員のもと両学科の学生が合同で参加し、それぞれの専門教育領域を学生が自主的に相互に教え合う実習形態も取り入れ、高齢社会のニーズに対応した『口腔ケア』実習教育や多職種連携教育の質の向上が図られた。

(5) 保育学、食物栄養学、保育学、ビジネス実務学を教授する他大学の専任教員等を招聘し、キャリア形成支援教育を系統的に実施した(2011(平成23)年度に90分×計24コマ)【資料7】。受講学生の満足度も高く、学生ニーズに沿った取組としての全学的な支援態勢の充実を図ることができた。

(6) 第一線で活躍する実務家、卒業生アドバイザー等と連携した医療・福祉系就業のためのキャリアガイダンス・セミナーを実施し、キャリア形成支援態勢の充実が図られた。

(7) 2011(平成23)年9月8日と2012(平成24)年3月15日に外部有識者を含む『評価委員会』を開催し、取組の成果について肯定的な評価を得るとともに【資料3】、他大学の先進的な取組事例を本教育事業の取組の改善に反映させることができ、将来につ

ながる本学全体のキャリア形成教育の質的転換の糧とすることができた。

今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

少子高齢社会を迎えた医療・福祉の職域において、社会的・職業的自立につながる就職・キャリア形成支援の取組は、高齢者の生活の質を支える資質の高い人材確保としての意義も大きく、下記の2つの観点を柱に、2012(平成24)年度以降もキャリア形成教育を継続していく。

(1) PDCAサイクル活用のための多面的な教育ニーズの把握:

本事業を通じて得られた成果を、これからの社会や産業界のニーズに対応した実効的な取組として推進するために、学内評価調査とともに、卒業生とその企業(職場)の上司等を対象とする学外アンケート調査等の外部評価態勢の一層の向上を図り、外部評価を通じて得られる多面的な教育ニーズを、PDCAサイクルを通じた取組の質的転換に繋げたい

(2) 予測困難な時代における専門職としての生涯学習を視野に入れた教育支援態勢:

これからの予測困難な時代において、職業人の立場として将来に活路を見出す局面に際し、在学中より生涯学び続け主体的に考える能力を育成しておくことは、実効的なキャリア形成教育支援であると考えられる。本学の専門教育のさらなる質的転換のためにも、専門職としての生涯学習を視野に入れた教育支援態勢を充実させていきたい。

2. 今後の計画

上記の(1)(2)の取組について、以下の具体的な計画を策定している。

(1) PDCAサイクル活用のための多面的な教育ニーズの把握:

2012(平成24)年度には、多面的な就職支援・キャリア形成支援に関する学内評価アンケート調査を継続実施するとともに、2011(平成23)年度卒業生とその企業(職場)の上司等を対象とする卒業生追跡調査の計画を策定しており、2012(平成24)年度以降のキャリア形成支援事業における評価体制の充実を図る予定である。

(2) 予測困難な時代における専門職としての生涯学習を視野に入れた教育支援態勢：

専門職としての生涯学習を視野に入れた教育支援体勢を充実させる方策として、以下の3つの具体的な計画を進めて行く。

(2-I) 介護予防と多職種連携の実践を推進する『教育モデル』の構築：

- ・主体的で持続可能な学びを支えるための専門発展科目としての『口腔介護推進歯科衛生士』と『口腔ケア支援介護福祉士』育成教育と認定資格制度の推進
- ・将来の医療・福祉領域の変化に対応する多職種連携のための『医療的ケア』教育

(2-II) 医療・福祉分野における主体的なキャリア形成支援教育：

これからの高齢社会ニーズに対応するために、在学中から従来の専門知識や技術の教授にとどまらず、認知症等に対する専門支援技術などの幅広い『福祉系資格』に対応した教育支援も、専門職のキャリア形成教育の質的転換に資する取組と位置付けている。

ちなみに本学では、将来のキャリア形成に関する学生ニーズの把握のために、2012(平成24)年2月6日に、2011(平成23)年度卒業生を対象とした『福祉系資格』(認知症支援専門士とケアマネジャー)取得支援に関するアンケート調査を実施し、社会的・職業的自立にも繋がる上記の『福祉系資格』の取得支援の要望について把握することができた。

(2-III) 主体的な自己理解・自己管理を支援する『学修自己評価ポートフォリオ』教育：

職業人として活躍できるよう、主体的な自己理解・自己管理を前提とした考える力を在学中から育成する方策の一つとして、『学修自己評価ポートフォリオ』教育の計画を策定している。2012(平成24)年度新入生全員を対象とした取組で、キャリア形成教育と連携させた系統的な指導スケジュールに基づき、年2回、学期の終了ごとに学修達成度の自己理解と自己評価を行い、助言教員のアドバイスの下に次学期の履修方針を立て学修の自己管理を継続していく取組である。学生自身の「自己管理能力」の涵養と、職業人としての主体的な資質能力の理解・確認のための学内教育指導態勢の強化を進めている。

就職未内定者への支援策

1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

現時点において、本学卒業生は求人倍率の比較的高い医療・福祉分野への専門就職の割合が高い状況であるが、上記学生に対する支援は重要な課題と考えている。特に、未内定のまま卒業した者に対しては、在学生以上にきめ細やかな支援が必要であり、就業力支援室の有効利用を促すとともに、助言教員との連携による相談・助言の指導をさらに充実させたい。

福岡医療短期大学 就業力支援委員会 活動報告

(関連議事録抜粋 平成22年11月～平成24年3月)

平成22年度：

第19回 合同教授会報告：【平成22年11月30日（火）】

[学務・FD委員会等関係]

- 16) 就業力支援委員会規則について (別紙14)
議長は、就業力支援委員会規則について、別紙14により学務・FD委員会案を提案し、了承された。

第20回 合同教授会報告：【平成22年12月14日（火）】

[学務・FD委員会等報告事項]

- 4) 就業力支援委員会規則について (資料2)
議長は就業力支援委員会規則が12月13日の常任役員会で承認されたことを資料2により報告した。

[学務・FD委員会等関係]

- 8) 就業力支援委員会構成委員について (大倉) (別紙3)
大倉学科長は別紙3により8名の就業力支援委員会構成委員について提案し、了承された。
9) 平成22～23年度「大学生の就業力育成支援事業」担当者について (大倉) (別紙3)
大倉学科長は別紙3により平成22～23年度「大学生の就業力育成支援事業」の領域別担当者について提案し、了承された。

第21回 合同教授会報告：【平成22年12月20日（月）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 4) 実習教育・教育情報啓発システムについて (資料2)
大倉学科長は、本年度就業力支援育成事業の実習教育・教育情報啓発システムについて資料2により報告した。

第22回 合同教授会報告：【平成23年1月4日（火）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 9) その他
① FD講演会について
標記について、大倉教授は次のとおりFD講演会予定について報告した。
第1回 平成23年1月11日（火）17：00～19：00 (福岡工業大学学生部長 笹田茂男氏)
第2回 平成23年2月22日（火）17：00～19：00 (九州女子大学学生支援課課長 澤田小百合氏)
第3回 平成23年3月22日（火）17：00～19：00 (久留米信愛女学院短期大学学長補佐 関聡氏)

第24回 合同教授会報告：【平成23年2月3日（木）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 6) FD講演会 (2/15) の内容変更について (大倉)
標記について、大倉教授は講演講師からの辞退願により、日程を2月22日開催に変更とし、内容をDVDによるキャリアガイダンス研修とすることを報告した。
7) 就業力支援「FD講演会」(H23.1.11実施)の教員対象アンケート結果について (大倉) (資料3)
標記について、大倉教授は資料3によりアンケート集計結果を報告した。

[就業力支援委員会関係]

- 23) 「福岡医療短期大学」表記デザインについて (大倉) (別紙15)
大倉学科長は、情報発信の一環としてのデザイン案について、別紙15により就業力支援委員会案を提案し、中段のデザインにすることとした。
24) 学生ポートフォリオ用ファイルのデザインについて (大倉) (別紙16)
大倉学科長は、学生に配布する学生ポートフォリオ用ファイルのデザインについて、別紙16により就業力支援委員会案を提案し、了承された。
25) 平成23年度「就業力の日」(仮称)のスケジュールについて (大倉) (別紙17)
大倉学科長は、別紙17により標記スケジュールについて就業力支援委員会案を提案し、了承された。
26) 平成23年度新入学生対象入学前教育参考書と課題レポートについて (大倉) (別紙18)
標記について、大倉教授は別紙18により新入学生対象入学前教育参考書と課題レポートについて就業力支援委員会案を提案し了承された。なお、提出期限は3月22日とした。

第 26 回 合同教授会報告：【平成 23 年 2 月 23 日（水）】

[就業力支援委員会関係]

18) その他

大倉学科長は、平成 23 年 2 月 22 日（火）にキャリアカウンセリングについての解説 DVD を活用した就業力支援 F D 講演会を開催した旨報告した。

第 29 回 合同教授会報告：【平成 23 年 3 月 9 日（水）】

[就業力支援委員会報告事項]

6) 平成 22 年度両学科卒業生に対する就職支援関連アンケートについて（高瀬） 資料 3
標記について、高瀬教授は資料 3 によりアンケート調査を実施した旨報告した。

7) 就業力支援「F D 講演会」のアンケート結果について（高瀬） 資料 4
高瀬教授は平成 23 年 2 月 22 日に実施した標記 F D 講演会のアンケート結果について、資料 4 により報告した。

8) その他

升井学科長は、ホームページに掲載中の教育情報の公開に係る更新修正データを先週末に企画課へ提出した旨報告した。

[就業力支援委員会関係]

15) 文部科学省 G P 情報発信ホームページレイアウトについて（高瀬） 別紙 11
標記について、高瀬教授は別紙 11 により就業力支援委員会案を提案し、了承された。

第 30 回 合同教授会報告：【平成 23 年 3 月 14 日（月）】

[就業力支援委員会関係]

11) 入学前教育参考書の正規科目（シラバス）での活用について（大倉） 別紙 5
標記について、大倉教授は別紙 5 により学務・F D 委員会案を提案し、原案のとおり承認され、両学科の当該科目のシラバスに参考書として記載することとした。

第 31 回 合同教授会報告：【平成 23 年 3 月 18 日（金）】

[就業力支援委員会関係]

22) 教育啓発情報放送システム活用タイムスケジュールについて（升井） 別紙 19
標記について、升井教授は別紙 19 により学務・F D 委員会案を提案し、了承された。

23) 平成 23 年度「就業力支援セミナー」スケジュールについて（升井） 別紙 20
標記について、升井教授は別紙 20 により学務・F D 委員会案を提案し、了承された。

24) その他

升井教授は、3 月 17 日（木）に第 1 回就業力支援プログラム委員会を開催した旨報告した。

平成 23 年度：

第 1 回 合同教授会報告：【平成 23 年 4 月 12 日（火）】

[就業力支援委員会報告事項]

1) 平成 23 年 3 月 17 日実施「就業力支援評価委員会」の概要について（大倉） 資料 3
標記について、大倉学科長は資料 3 により、報告を行った。

2) 平成 22 年度「就職支援推進プログラム」の外部委員評価結果について（大倉） 資料 4
標記について、大倉学科長は資料 4 により、報告を行った。

3) 平成 23 年 3 月 22 日実施 就業力支援「特別 F D 講演会」についてのアンケート結果について（大倉） 資料 5
標記について、大倉学科長は資料 5 により、報告を行った。

[就業力支援委員会関係]

16) 平成 23 年度「就業力支援セミナー」スケジュール案（両学科）について（大倉） 別紙 13
標記について、大倉学科長は就業力支援委員会案別紙 13 により両学科のスケジュールを説明し、了承された。

17) 就業力支援の取組 フローチャートについて（大倉） 別紙 14
（入学前教育「初年次教育」「阿蘇新入生研修」）

標記について、大倉学科長は就業力支援委員会案別紙 14 により説明し了承された。なお、今後は本補助金で雇用されているティーチングアシスタント（T A）の呼称をアシスタントティーチャー（A T）に変更することとした。

第2回 合同教授会報告：【平成23年4月25日（月）】

[就業力支援委員会報告事項]

4) 阿蘇研修について(大倉)

標記について、大倉教授は4月15日(金)～16日(土)の国立阿蘇青少年交流の家で実施した
歯科衛生学科1年、保健福祉学科1・2年の学生を対象とする阿蘇研修会について報告を行った。

[就業力支援委員会関係]

- 24) 4月～6月のFD講演会予定について(大倉) 別紙21
標記について、大倉教授は就業力支援委員会案別紙21について提案し了承された。
- 25) サンシャインプラザ等における両学科学年合同口腔ケア施設実習について(大倉) 別紙22
標記について、末松准教授は就業力支援委員会案別紙22により提案した結果、改めて具体的な
スケジュールを記載した資料を作成のうえ提出することとした。
- 26) 4月28日(木)「就業力支援セミナー」スケジュールについて(大倉) 別紙23
標記について、大倉教授は就業力支援委員会案別紙23により提案し了承された。
なお、担当教員名を記載することとした。

第3回 合同教授会報告：【平成23年5月11日（水）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 3) 平成23年度保健福祉学科「就業力支援研修会」の学生アンケート結果について(大倉) 資料1
(H23.4.15～16実施・国立阿蘇青少年交流の家)
大倉教授は本年4月15日(金)・16日(土)に実施した標記研修会に係る保健福祉学科1・2年次
の学生アンケート結果を資料1により報告した。
- 4) 保健福祉学科「就業力支援セミナー」(H23.4.28実施)の学生アンケート結果
について(大倉) 資料2
大倉教授は本年4月28日(木)に実施した標記セミナーに係る保健福祉学科1・2年次の
学生アンケート結果を資料2により報告した。
- 5) 平成23年度保健福祉学科2学年対象の就職・就業力支援関連アンケート
結果について(大倉) 資料3
大倉教授は本年4月7日(木)オリエンテーション時に実施した標記の学生アンケート結果を
資料3により報告した。
- 6) 平成23年度施設実習指導者連絡会議(H23.4.26実施)の実施報告について(大倉) 資料4
大倉教授は本年4月26日(火)に実施した標記について、資料4により報告した。

[就業力支援委員会関係]

- 10) サンシャインプラザにおける両学科学生合同口腔ケア実習について(末松) 資料5
末松准教授は前回教授会で説明した標記について、改めて具体的スケジュールを記載した就業力支援
委員会案資料5により提案し了承された。なお、議長は過年度の実績も含め、学術論文を作成する
よう提案した。

第5回 合同教授会報告：【平成23年6月8日（木）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 5) 「就業力セミナー(学内が'イ'ス)〔歯科衛生学科〕」(H23.5.25実施)学生アンケート
結果について(大倉) 資料3
標記について、大倉教授は、平成23年5月25日(水)に実施した歯科衛生学科3年次の就業力
セミナーのアンケート結果について資料3により報告した
- 6) 就業力支援「FD講演会」(H23.5.31実施)のアンケート結果について(大倉) 資料4
標記について、大倉教授は、平成23年5月31日(火)に実施した就業力支援「FD講演会」に
ついて資料4により報告した。
- 7) 「就業力セミナー(学内が'イ'ス)〔保健福祉学科〕」(H23.6.7実施)実施概要
について(大倉) 資料5
標記について、大倉教授は、平成23年6月7日(火)に実施した保健福祉学科1・2年次の
就業力セミナーの実施概要を資料5により報告した。

[就業力支援委員会関係]

- 12) 就業力支援「特別FD講演会」(7月・8月期)について(大倉)
* 7月下旬：関西国際大学 濱名 篤 学長
* 8月上旬：自由が丘産能短期大学 池内健治 副学長
標記について、大倉教授は7月・8月期の特別FD講演会日程については、講師からの依頼により
7月期に2回実施することとし、1回目を7月25日(月)14時00分から(講師：関西国際大学
濱名 篤 学長)、2回目を7月28日(木)14時00分から(講師：自由が丘産能短期大学
池内健治 副学長)とする就業力支援委員会案を提案し、了承された。

第 6 回 合同教授会報告：【平成 23 年 6 月 28 日（火）】

[就業力支援委員会報告事項]

- 5) 保健福祉学科「就業力支援セミナー」についての学生アンケート結果について（大倉）資料 3
 標記について、大倉教授は 6 月 7 日（火）に実施したセミナーの学生アンケート結果について資料 3 により報告した。

[就業力支援委員会関係]

- 18) 就業力支援「特別 F D 講演会」について（大倉） 別紙 1 2
 * 7 月 25 日（月）14：00～16：00 濱名 篤（関西国際大学・学長）
 * 7 月 28 日（木）14：00～16：00 池内健治（自由が丘産能短期大学・副学長）
 標記について、大倉教授は特別 F D 講演会について、就業力支援委員会案を別紙 1 2 により提案し、了承された。なお、本講演会に専攻科生を参加させることとし、7 月 25 日（月）の濱名氏の講演会について、当日 4 時限の専攻科授業として振替えることとした。

第 8 回 合同教授会報告：【平成 23 年 7 月 26 日（火）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 就業力 F D 講演会のアンケート結果について 別紙 1 5
 * H23. 6. 28 (火) DVD 教材「介護スタッフの接遇マニュアル」
 標記について、大倉教授は別紙 1 5 により就業力 F D 講演会のアンケート結果について報告した。
 (2) 就業力支援育成支援事業九州・沖縄地域会議について（大倉）
 * H23. 7. 12 (火) 福岡工業大学
 標記について、大倉教授は 7 月 12 日（火）に福岡工業大学において開催され、田中課長と共に参加したことを報告した。
 (3) 就業力支援育成支援事業「特別 F D 講演会」（本学）について（大倉）
 * H23. 7. 25 (月) 講師 関西国際大学・学長 濱名 篤
 標記について、大倉教授は昨日 7 月 25 日（月）に本学において開催したことを報告した。
 (4) 「就職に関する意見交換会」について（大倉）
 * H23. 8. 8 (月) K K R ホテル博多
 標記について、大倉教授は 8 月 8 日（月）に K K R ホテル博多にて開催されることを報告し、本学から榑崎課長補佐と共に参加することを説明した。

2) 審議事項

- (6) 就業力支援のための学内掲示ポスターについて（大倉） 別紙 1 6
 標記について、大倉教授は、人事異動後の担当教員の顔写真等を掲載した学内掲示ポスターを作成したことを別紙 1 6 により説明し、了承された。

第 9 回 合同教授会報告：【平成 23 年 8 月 9 日（火）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 「就職に関する意見交換会」について（大倉）
 * H23. 8. 8 (月) K K R ホテル博多
 大倉学科長は、文部科学省等主催の標記交換会に、榑崎課長補佐とともに参加した旨報告した。

第 11 回 合同教授会報告：【平成 23 年 8 月 30 日（火）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 就業力育成支援事業「特別 F D 講演会」についてのアンケート結果について（大倉） 資料 2
 * H23. 7. 25 (月) 講師 関西国際大学・学長 濱名 篤
 (2) 就業力育成支援事業「特別 F D 講演会」についてのアンケート結果について（大倉） 資料 3
 * H23. 7. 28 (木) 講師 自由が丘産能短大・副学長 池内健治

第 13 回 教授会合同教授会報告：【平成 23 年 9 月 12 日（月）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 第 2 回評価委員会 [H23. 9. 8 (木)] について（大倉）
 (2) 就業力支援セミナーについて（大倉） 資料 2
 H23. 9. 13 (火) 保健福祉学科 1・2 年 1・2 限 他職種理解・連携講座、3・4 限 ビジネス・マナー講座
 (3) 就業力支援セミナー（歯科衛生学科・3 年）[H23. 9. 2 (金)] の学生アンケート結果について（大倉）資料 3

2) 審議事項

- (1) 「就業力支援セミナー」スケジュールについて（大倉）別紙 2 1

第14回 合同教授会報告：【平成23年9月26日（月）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 保健福祉学科1・2年「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.9.13（火）1・2限 中村学園短期大学部幼児保育学科 古賀和博・准教授 資料2
 * H23.9.13（火）3・4限 ウィズキャリア 森脇淳子・キャリアカウンセラー 資料3

第16回 合同教授会報告：【平成23年10月20日（木）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 第2回評価委員会（H23.9.8開催）外部評価者による事業取組みについての
 評価結果について（大倉） 資料8
 (2) 歯科衛生学科2年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉） 資料9
 * H23.10.12（水）3・4限 森脇淳子（ウィズキャリア）

2) 審議事項

- (1) 就業力支援セミナー実施時の学生アンケートの変更について（大倉） 別紙18

第17回 合同教授会報告：【平成23年11月4日（金）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 歯科衛生学科3年次「就業力支援セミナー」の学生アンケートについて（大倉） 資料7
 * H23.10.21（金）3・4限 中村学園短期大学部幼児保育学科 松尾智則 教授

2) 審議事項

- (1) 保健福祉学科1・2年次「就業力支援セミナー（卒業生アドバイザー）」について（大倉）
 * H23.12.13（火）実施予定
 (2) 入学前教育の参考テキスト「知へのステップ」の教則本の活用について（大倉） 別紙19

第18回 合同教授会報告：【平成23年12月13日（火）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 歯科衛生学科2年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.11.9（水）3・4限 中村学園短期大学部食物栄養学科 松隈紀生 教授 資料2
 (2) 歯科衛生学科1年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.11.10（木）1限 中村学園短期大学部キャリア開発学科 本山和子 准教授 資料3
 * H23.11.10（木）2限 中村学園短期大学部キャリア開発学科 清水 誠 教授 "

- * H23.11.10（木）3・4限 森脇淳子（ウィズキャリア） 資料4

- (3) 歯科衛生学科3年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.11.21（月）3・4限 森脇淳子（ウィズキャリア） 資料5

- (4) 保健福祉学科1・2年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.12.6（火）1限 中村学園短期大学部キャリア開発学科 清水 誠 教授 資料6

- * H23.12.6（火）2限 中村学園短期大学部キャリア開発学科 本山和子 准教授 "

- * H23.12.6（火）3・4限 森脇淳子（ウィズキャリア） 資料7

第20回 合同教授会報告：【平成24年1月17日（火）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 保健福祉学科1・2年次「就業力支援セミナー」の学生アンケート結果について（大倉）
 * H23.12.13（火）3・4限 卒業生アドバイザー5名 資料3
 (2) 就業力支援GPについて（大倉）
 (3) 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業について（大倉）
 (4) 就業力支援に関するアンケートについて（大倉）
 (5) デジタルサイネージの提示コンテンツ作成グループについて（大倉） 資料4

第21回 合同教授会報告：【平成24年2月2日（木）】

6 就業力支援委員会

2) 審議事項

- (1) 第3回就業力支援プログラム評価委員会（H24.3.15）の開催について（大倉） 別紙11
 * H23.3.15（木）17：00～

第 25 回 合同教授会報告：【平成 24 年 2 月 20 日（月）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 就業力支援セミナー・ガイダンスの取組全般についてのアンケート結果について（大倉）資料 2
 - ・保健福祉学科 2 年次対象（H24. 2. 6 実施）
- (2) ケアマネージャー（介護支援専門員）等の資格取得についてのアンケート結果について（大倉）資料 3
 - ・保健福祉学科 2 年次対象（H24. 2. 6 実施）

第 27 回 合同教授会報告：【平成 24 年 3 月 12 日（月）】

6 就業力支援委員会

2) 審議事項

- (1) 平成 24 年度開始予定の就業力支援「学修自己評価ポートフォリオ」実施計画について（大倉）別紙 13

第 29 回 合同教授会報告：【平成 24 年 3 月 29 日（木）】

6 就業力支援委員会

1) 報告事項

- (1) 平成 23 年度「2 冊の参考書を活用した入学前教育」の取組みについてのアンケート結果について（大倉）
* H24. 3. 13 保健福祉学科 1 年次

資料 5

（以上）

文部科学省 平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」
『短期大学教育力活用による学際的就业力育成』事業

第 3 回 就業力支援プログラム評価委員会

日時：平成 24 年 3 月 15 日（木）17：00～19：30

場所：福岡医療短期大学 2 階会議室

内容：

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 事業実績報告
 - 1) 福岡医療短期大学就業力支援委員会活動報告について (資料 1)
 - 2) 入学前教育について (資料 2 A, 2 B)
 - 3) 初年次導入教育について (資料 3 A, 3 B)
 - 4) 主体的で体系的な大学生生活・就職活動の支援体勢について (資料 4 A, 4 B)
 - 5) インターンシップ（キャンパス内企業（職場）での施設実習）の準備教育の取組について (資料 5)
 - 6) 短期大学教育力や実務家の教育力を活用した学際的就业力育成の取組について (資料 6 A, 6 B)
 - 7) 就業力支援体制の質向上のための平成 24 年度両学科カリキュラム変更について (資料 7)
 - 8) 第 2 回評価委員会（H23.9.8 実施）の評価結果概要について (資料 8)
 - 9) ①専門発展教育の充実について (資料 9 A)
②職場（産業界）のニーズへの対応や多職種連携のための「医療的ケア教育」について (資料 9 B)
③職場（産業界）のニーズ、学生のニーズに対応した上級資格取得支援について (資料 9 C)
4. 事業計画
新たな文部科学省 GP について
5. 質疑（ご意見・アドバイス等）
6. その他
7. 閉会

参加予定者(敬称略)

学外委員：

鳥尾 紀詔 (福岡県歯科医師会 理事)
因 利恵 (福岡県介護福祉士会 会長)
中村 信博 (福岡大学 就職・進路支援センター センター長)
笹田 茂男 (福岡工業大学 学生部 事務部長)
森脇 淳子 (ウィズキャリア 代表)
清水 誠 (中村学園大学短期大学部 短期大学部長)
中島與志行 (介護老人保健施設 サンシャイン シティ 施設長)
山川 公明 (介護老人福祉施設 サンシャイン プラザ 施設長)

学内委員：

学長 栢 豪洋 (福岡医療短期大学 学長)
代表 大倉 義文 (教授・保健福祉学科長)
升井 一朗 (教授・歯科衛生学科長)
廣瀬 武尚 (歯科衛生学科 教授)
堀部 晴美 (歯科衛生学科 教授)
松尾 忠行 (歯科衛生学科 准教授)
高瀬 文広 (保健福祉学科 教授)
末松 美保子 (保健福祉学科 准教授)
前田 豊美 (アシスタントティーチャー：歯科衛生学科)
廣田 文子 (アシスタントティーチャー：保健福祉学科)
松尾 麻紀 (就職相談員：歯科衛生学科)
中田 沙世 (就職相談員：保健福祉学科)
田中 慎二 (短大事務課長)

以上

平成 23 年度 文部科学省『大学生の就業力育成支援プログラム』
「短期大学教育力活用による学際的就业力育成」
第 3 回評価委員会（H24. 3. 15 実施）外部評価者による
事業取組についての評価結果概要

（1）取組全般についての評価

今回の事業取り組みは計画の立案から実施、反省、更には次への見直しと、教員が一体感を持ち、P D C A サイクルを基本軸に取り組んでなされた事業として高く評価に値する。本学の大学教学組織では出来得ません。又、今、重要視されているリベラルアーツをも基礎に組み込まれた専門領域のレベルアップも確実に把握できるシステムは他に類を見ない。先生方の姿勢に敬意を表します。

まずは、福岡医療短期大学就業力支援委員会の皆様が、それぞれの役割をきちんと認識され、熱心に取り組まれてきたことに対して、敬意を表します。とくに、本来の教育を重視する視点からの取組であることを強く意識された上で、多様なプログラムを展開されている点を高く評価します。

配付された資料により、「短期大学教育力活用による学際的就业力育成」事業の 5 つの取組が、各々着実に実施されていると高く評価できる。特に 1-2) 初年時教育、3-3) インターシップの準備教育については企画の実践とその評価が完結している。その他の取り組みについても、ほとんどは既にも実施され、実施した企画の評価について準備中であり、事業の成果を期待したい。

どの取組も学生の立場に立って考えられた内容だと感じました。中でも、入学前教育と初年次教育は他の大学でも必要性を感じながら、具体的な取り組みがまだ不十分なままのところが多いように見受けられます。ここをしっかりと行うことができれば、学生が自らの力で、学ぶ姿勢や職業感を身につけていくことが可能になります。特に、初年次教育の『Early exposure』は、今後もぜひ続けていただきたいと思います。

「5 つの取組の柱」としての取組それぞれが、福岡医療短期大学が有している特性を生かして、着実に実施されているようです。入学前教育から卒業までの一連の流れがひとつにつながり、成果が期待できる内容であり、高い評価が得られると思います。

入学前、初年次、入学後の教科カリキュラム、就活支援と一貫した理念の元に大変に充実したプログラムの取り組みであることがとても素晴らしい。これらの環境の下で学ばれる学生諸君は、特に恵まれており、その成果を存分に享受して専門職業人として大いに活躍してほしい。

(2) 成果についての評価

アンケートから当初の計画に近い結果になっていることは成果として評価できる。中でも学際的就業力の育成は、専門知識や専門スキルを超え、キャパシティを持つ人材形成を可能ならしめたことは、今後に大きな期待が出来る、就業力としても他大学との格差は一般論であるが評価の対象になる。医療短期大学生の今後に期待しています。

適切な手引書を活用した入学前教育および各学科教員が担当するオムニバス形式の授業による初年次教育に力を入れている点を高く評価します。

さらに、学生に対する効果のみならず、本事業に関する企画・実行プロセスを通じて、教職員側にも一層やる気が出てきたはずですから、この点も本プログラム推進による成果ポイントと考えます。

本事業の5つの取組のうち、企画書の1-1)、1-2)、2、3-1) (前期に終了)、3-2)、3-3)、4-2) のほとんどは実施され、1-2)、3-3) 以外はアンケート等により取り組みの評価準備中である。1-2) の初年時教育の授業は学生アンケート調査により高く評価され、2年前と比較して学生の評価は向上している。特に業務現場見学としての病院見学は **Early exposure** として極めて有効であった。3-3) インターンシップの準備教育として、地域と連携した体験学習が行われた。学生は積極的に参加し、スキルアップに貢献する学習として高く評価できる。試みを更に改善するために参加された高齢者による評価も有用であろう。

初年次教育の『**Early exposure**』については、学生からの感想に成果が表れていると感じます。

(資料番号 3B 「教員への要望や意見・感想を書いてください。」についてのまとめ)

「頑張る意欲が出た」「自分もこうなりたい等の向上心へとつながった」「将来像をイメージしやすくなった」等、学生が将来について具体的イメージを持ち、モチベーションをアップさせていることが伝わります。

このモチベーションを維持し続けるために、2年次以降もぜひ「病院見学」を続けていただきたいと思います。

初年次教育において、「歯科衛生士概論」の中での新たな取組として「病院見学」を取り入れた事は、学生から高い評価が得られています。入学間もない1年生前期での導入は、座学では学べない「歯科衛生士」に対する理解のしやすさが格段に向上すると思います。

「地域と連携した介護予防コミュニケーション授業」においては、教育の中で行われる体験学習が有用で効果が高いことが分かります。コミュニケーション技術は実際の現場で展開することにより向上して行くことから、学びの場として充実させてほしいと思います。福岡医療短期大学認定「口腔介護推進歯科衛生士」「口腔ケア支援介護福祉士」の認定資格は、それぞれの場でリーダーとしての活躍が期待され、就業力の向上につながると思います。

教育面では、学生の評価はおおむね良好のようですので、一応の成果はあったと見てよいと思います。また、当面の学生の就職率、就職先などは、専門資格が生かせる分野だけに、おおむね順調であるものと理解しています。

今回の「学際的就業力」の観点では、歯科・福祉共に医療的技術面のみならず、ある種のサービス産業と考えた「マナー・ホスピタリティ」の教育の力点を入れられました。その教育成果がどのように身について、患者ないし施設利用者に受け入れられていくのかが知りたいところです。その点は、学生の卒業・就職後の経過観察をすることで確認する以外になく、今後の取り組みに待ちたい。

(3) 今後の課題としてのご意見・コメント

素晴らしいプログラムもカリキュラムも教育のツールとしてのポートフォリオも原則的には学生自身の積極的な姿勢であり、アンケートからも少し見えて来ている。難しいのは個人のモチベーションに頼る他ないが、2年先を確り見せることで学生に対する影響力は持っていると思う。一つ確認ですがポートフォリオへの登録率、及び登録された内容に対するサーベイランス体制はどのようになっているのでしょうか。

今後の課題としてのご意見・コメント： (自由記載)

すでにご承知の通り、人間関係が希薄化した社会で育ち、ユニバーサル段階で入学した現在の学生に対しては、「主体性」をしっかりと身に付けさせ、人間力(生きる力)を高める事が強く求められており、そのための様々な工夫が必要と考えます。ただし、「過剰支援にならないように・・・」、この点をとくに気をつけて実施しないと、「自分で考え行動できる人材」の育成は実現できないでしょう。したがって、「見守る教育」といった側面を常に忘れないことが要諦であると考えます。

資料番号 3B にも書いてあるように、卒業しても「自分で学習する」事へつながる内容にすることが重要と考えます。

本事業は歯科衛生学科と保健福祉学科の2学科合同の学際的な取り組みである点も採択の要件の1つであったと考えられる。そこで、独自の必修科目の多い歯科衛生学科・保健福祉学科両学科ではあるが、できるだけ事業の5つの取組が両学科において並行的に進行することが望まれる。さらに医療・保健・福祉の関連領域として、3-1)のような合同の取り組みが増えることを期待したい。

「病院見学」について、2年次以降もぜひ続けていただきたいと思います。その場合、外部(一般医院、施設)との連携や学生主導で取り組むことが重要だと感じます。多くの学生が大学病院やキャンパス内施設以外に就職するのであれば、将来就職するであろう現場をより多く知ることが大切です。また、お膳立てされたものでなく、自らが考え、決めて、動くことが(自分で見学先を決め、申し込む)参加意識を高めると感じます。学生だけの判断で行うのは難しく、先生方の負担は大きくなりますが、外部や卒業生等の協力を得ながら実現していただきたいと思います。インターンシップは受け入れ先の負担や準備が必要なため、難しいかもしれませんが、ジョブシャドウイングであれば協力してくださる医院、施設も多いのではないかと思います。

現在、アンケート調査を準備されている「入学前教育」、「大学生活・就職活動の支援体制」

に関して、調査内容・結果の報告が待たれるところです。その結果に基づき、見直しと更なる活性化に向けての検討と取組に期待します。

充実したプログラムから構成されたこの 2 年間の計画は、時宜を得たもので「大学生の就業力育成支援事業」GP に採択された貴学の取り組みに敬意を表します。

国の補助事業が突如中断となることは、取り組みの継続性からしてまことに残念です。しかし、

ここで得たものは決して少なくないと思われるので、この成果をさらに継続的に生かして行くことが重要です。自学の運営には資金的な制約があることはやむを得ませんが、限られた予算の中で工夫をしながらも、中核となるプログラムは可能な限り継続して実施をされることが良いと思います。

(4) その他、意見や質問について

本学の学生に比較しても遥かに高い職業意識をお持ちの貴学学生さんに、改めて就業力育成プログラムが必要か、否か、文部科学省も一考を要するのではないのでしょうか。(4 年生大学には必要)

「キャリア」の意味を、「資格」といった狭義で理解すべきではなく、「人生」といった広義で捉えた上で、「キャリア教育」とは教育改革のキーワードと考え、全学体制で、すなわち教職員一丸となって、時代の変化に対応出来るような工夫を施しながら、本来の教育をしっかり行っていくことが何より重要と考えます。

中央教育審議会の教育振興基本計画部会による第 2 期教育振興基本計画にも、「社会の構成員全てが教育の当事者」という表現があります。

皆様、お疲れ様でした。今後も連携を図りながら、教育、すなわち人材育成に取り組んで参りましょう。

超高齢社会を見据えた医療・介護体制の整備は急務であり、平成 23 年に介護保険法改正が行われた。資料 9 の平成 24 年度新カリキュラムの改訂は、その法の趣旨に沿い、短期大学の就業力向上に貢献するものであり、本事業の目的に合致するものとして評価できる。

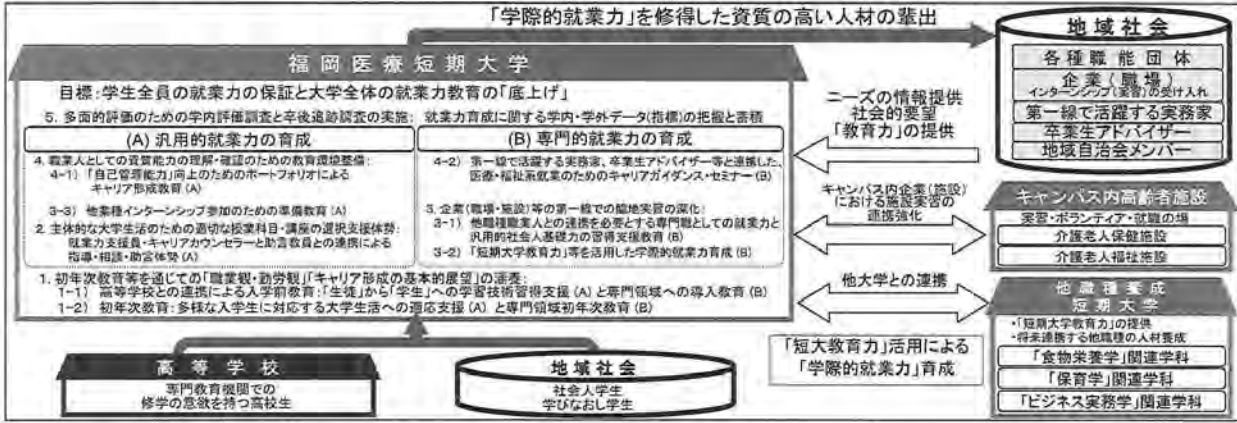
せっかくの取組が 2 年で終わるのは、惜しいと思います。形を変え、ぜひ続けていただきたいと思います。

これらのプログラムで教育を受けた学生の活躍が、卒後の追跡調査での評価において期待されます。この事業が継続され、さらなる発展につながる事をお祈りいたします。

以上

福岡医療短期大学 取組名称:短期大学教育力活用による学際的就業力育成

【取組概要】 就職内定状況の低迷と早期離職問題は、専門就職の中での職域の広がり職種増加に伴い、医療・福祉系学生においても切実な問題である。本取組は、他職種と連携できる幅広い職業人養成に主眼を置き、①本学の専門教育力のみならず、他短期大学の有する短期大学教育力や第一線の実務家の教育力を活かす「学際的職業力」育成をめざす。さらに、②キャンパス内高齢者施設(職場)での専門的職業力とともに、汎用的な社会人基礎力の習得支援を目標とする。また、③入学前・初年次教育から社会的・職業的自立へつながるキャリア形成教育を通じて、学生全員の就業力保証と大学全体の就業力育成教育の「底上げ」をめざす。本事業を通じて、中長期的な i) 内定率の向上、ii) 学生・企業(職場)間のミスマッチ就職の回避、iii) 早期離職率の低減の達成を図り、高齢者の生活の質を支える資質の高い人材確保と新たな雇用創出につながる就業力育成支援態勢の強化をめざす。



【達成目標・成果等】
本取組による資質の高い職業人養成を通じて、本取組実施前の状況と比較して、i) 内定率の向上、ii) 学生・企業(職場)間のミスマッチ就職の低減、iii) 早期離職率の低減の達成を図ることを目標とする。さらに、教育モデル構築のため、就業力支援員等による就職相談・支援の状況、ガイダンス・説明会等の履修態度、対象学生の意欲・満足度やニーズ、取組の有用性や課題点等を適宜把握し、学内評価の指標とする。また、就職内定率や学生・企業(職場)間ミスマッチによる内定取消等の就職状況のデータとともに、就職先である企業(職場)や職業人となった卒業生自身による評価についても卒業追跡調査を実施し、それらの学外評価データの改善も達成目標とする。

就職支援推進プログラム

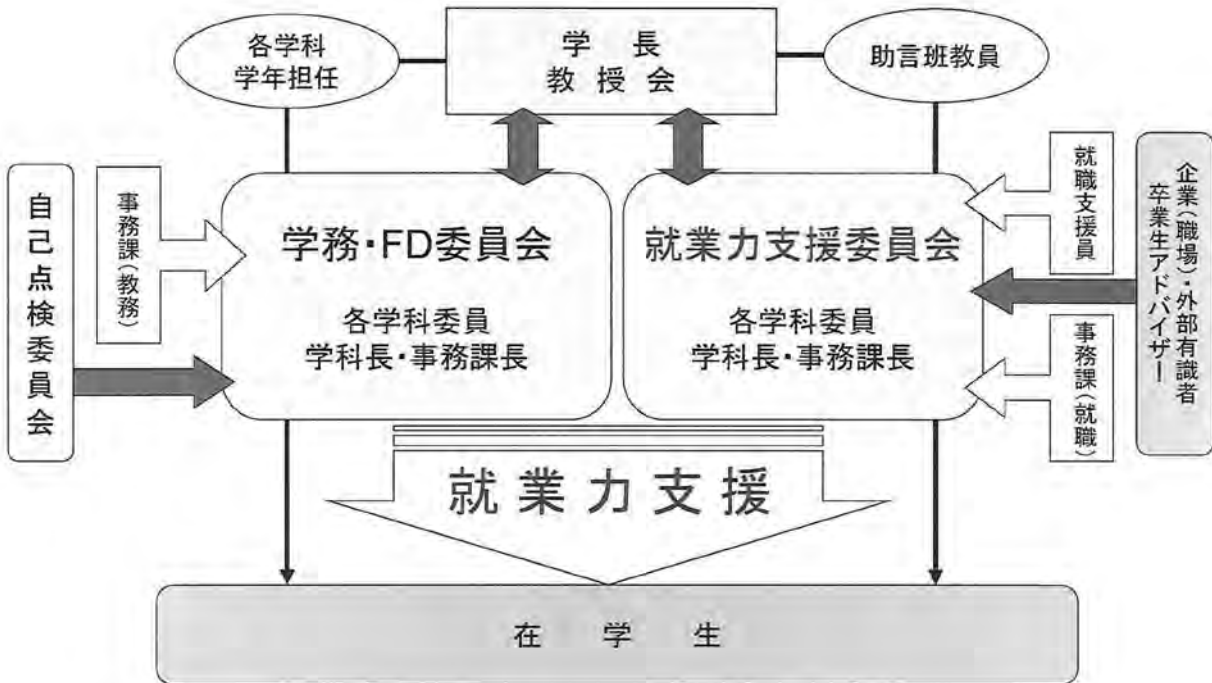


図1. 全学的な教育改革として就業力支援委員会をサポートする学内支援体制

資料 6

福岡医療短期大学 就職力支援委員会

1. 目的
本委員会は、就職活動の指導と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

2. 組織
本委員会を、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

3. 委員
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

4. 委員の任期
本委員会の委員の任期は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

5. 委員の選任
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

6. 委員の職務
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

7. 委員の権限
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

8. 委員の報酬
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

9. 委員の任期
本委員会の委員の任期は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

10. 委員の選任
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

11. 委員の職務
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

12. 委員の権限
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

13. 委員の報酬
本委員会の委員は、就職活動の推進と支援、就職相談、就職支援の推進、就職活動の活性化、就職活動の円滑化を図ることを目的とする。

資料 7

平成23年度『就業力支援セミナー・ガイダンス』実績

歯科衛生学科					
日時	授業時間	学年	学科・内容	講師	備考
5月25日 (水)	13:10~14:40 14:50~16:20	2学年	就職活動等の 学内ガイダンス 就業力支援 DVD教材視聴	最終学年担任	就職活動の進め方・注意事項 等 多様な業種の紹介DVD 「医療スタッフの雑談マニュアル」(日経DVO)
9月2日 (金)	13:10~14:40 14:50~16:20	2学年	卒業生 アドバイザー ガイダンス	卒業生 アドバイザー	卒業生アドバイザーによるガイダンス開催
10月12日 (水)	13:10~14:40 14:50~16:20	2学年	セミナー	森田淳子先生	就活力・社会人力向上セミナー(1)(2)
10月21日 (金)	13:10~14:40 14:50~16:20	3学年	幼児保育学科	松尾智則教授	「乳幼児と接する幼稚園教師・保育士の 知識・技術に学ぶ」
11月9日 (水)	13:10~14:40 14:50~16:20	2学年	食物栄養学科	松尾智則教授	多量の園料理と食文化
11月10日 (水)	9:00~10:30 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20	1学年	キャリア開発学科 セミナー	本山和子准教授 清水 誠教授 森田淳子先生	コミュニケーションとマナー サービスとホスピタリティ 就活力・社会人力向上セミナー(3)(4)
11月21日 (月)	13:10~14:40 14:50~16:20	3学年	セミナー	森田淳子先生	就活力・社会人力向上セミナー(5)(6)

保健福祉学科					
日時	授業時間	学年	学科・内容	講師	備考
4月28日 (水)	9:00~10:30 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20	1学年 2学年	食物栄養学科 セミナー	森田淳子准教授 森田淳子先生	小児・高齢者の食物摂取 等 就活力・社会人力向上セミナー(1)(2)
6月7日 (火)	9:00~10:30 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20	1学年 2学年	就職活動等の 学内ガイダンス 就業力支援 DVD教材視聴 セミナー	最終学年担任 最尾佳晴 ワークショップ	就職活動の進め方・注意事項 等 多様な業種の紹介DVD 「介護スタッフの雑談マニュアル」(日経DVO) 農業体験ワークショップ 省エネ対策としての緑のカーテン
8月19日 (火)	9:00~10:30 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20	1学年 2学年	幼児保育学科 セミナー	吉野和博准教授 森田淳子先生	発想力・進捗力を高める多面発想折紙の制作 就活力・社会人力向上セミナー(3)(4)
12月6日 (火)	9:00~10:30 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20	1学年 2学年	キャリア開発学科 セミナー	清水 誠教授 本山和子准教授 森田淳子先生	コミュニケーションとマナー サービスとホスピタリティ 就活力・社会人力向上セミナー(5)(6)
12月18日 (火)	13:10~14:40 14:50~16:20	1学年 2学年	卒業生 アドバイザー ガイダンス	卒業生 アドバイザー	卒業生アドバイザーによるガイダンス開催

就職支援推進プログラム

評 価 結 果

評 定 : S

評定理由（総論）

本プログラムは、医療・福祉を支える人材の就職支援態勢の強化を図ることを目的として、①医療・福祉系の勤務経験のある就職相談員を配置し個々の学生に対応した就職支援の実施、②医療・福祉系の企業や団体と連携した説明会を開催といった取組を行うことで、内定率向上、ミスマッチ回避、早期離

職率低減という目標の達成を目指すものである。医療・福祉系という学科の特性と大学の事情に合致した妥当な内容の取組が立案されており、高く評価できる。また、自己点検評価においても、5つにわたる適切な観点を提示した上で、根拠となる客観的データを収集し多面的な検証を実施しており、評価できる。ただし、3つの目標の達成については、客観的なデータに依拠する直接的な言及がなく、その効果を説得的に提示することが望まれる。

視察日：2012(平成24)年10月22日（月）



総評

本取組は、医療・福祉を支える人材の就職支援態勢の強化を図ることを目的として、①医療・福祉系の勤務経験（歯科衛生士、医療事務）のある就職相談員2名を配置し、個々の学生に対応した就職支援を実施するとともに、②医療・福祉系の企業や職能団体（歯科医師会と介護福祉会）と連携した説明会を開催するといった事業を行うことで、就職内定率向上、学生・企業間のミスマッチ回避、早期離職率低減という具体的な目標の達成を目指すものであり、厳しい就職環境に直面する大学の事情と医療・福祉系という学科の特性に合致した、妥当な内容の取組が立案されており、高く評価できる。

本取組については、教職員、学生両方に対する周知徹底と情報共有の方策が、組織・運用面から適切に実施されている点も高く評価できる。とりわけ、教職員に対する周知を図るために設置された「就業力支援委員会」は、教授会に対して活動実績の報告を行うだけでなく、教授会からのフィードバックを取り込み、各取組に生かしていくというPDCAサイクルの中心として機能したことが確認でき、注目に値する。また、学生に対しても学内掲示ポスターを作成するなど、誠実に広報に努めたことが認められる。

上記の就職内定率向上、学生・企業間のミスマッチ回避、早期離職率低減という具体的な目標については、本取組期間において十分に達成されたとは言いがたいものの、本取組終了後の平成23年度以降、①介護予防と多職種連携の実践を推進する『教育モデル』の構築、②医療・福祉分野における主体的なキャ



リア形成支援教育、③主体的な自己理解・自己管理を支援する『学修自己評価ポートフォリオ』教育といった各取組を継続強化しており、今後の成果が期待できるものとなっている。総じて、本取組は具体的な計画・工程表等に基づいて実施されたことが確認でき、高く評価できるものである。

個別事項

実地視察において、本取組についてヒアリングを行った結果、以下の点が特筆できる。

(1) 支援プログラム初年度の平成21年度は、取組の中心組織として、学長、学科長、就職担当教員、就職相談員らで構成される「推進委員会」が設置され具体的な計画の策定が行われていたが、平成22年12月にはこの組織を拡充・恒久化するために、「就業力支援委員会」を設置し、規程の整備を行った。これ以降、この委員会が①教職員への取組の周知徹底、②学務・FD委員会とともに就業力育成教育の策定、③各取組の評価そして改善という、PDCAサイクルの中心として機能していることが認められる。こうした就職支援の取組は、概して一部の教員の個人的力量に頼りがちになるところであるが、この委員会を十分に機能させ、歯科衛生学科、保健福祉学科教員が集団として学生に向き合う体制を整えたことは、短期大学という特殊性を考慮に入れたとしても、教員の凝集性を高める取組として注目に値する。

(2) 自己点検評価においては、適切な観点（学生、教職員、学外有識者、修学状況、就職状況）を提示し、それに対応するデータを収集した上で点検

評価と改善案の策定に努めており、その姿勢と手法は評価できる。とりわけ、就業力支援プログラム評価委員会を設置し、学内外から委員を募った上で、取組全般について評価・検討を行ったことは、こうした時限的なプログラムの運営の点検評価のあり方として注目に値する。点検で収集したデータ及び分析からは、2009(平成21)・2010(平成22)年度において各取組が高い実効性を持ったかどうかの判断は難しいところではあるが、プログラム終了後も現在に至るまで就業力支援の取組は継続ないし拡充されており、その効果測定のための点検評価も同様の手法で継続していることを考慮すると、より実効性の高い事業の策定に今後繋がっていくことが大いに期待できるものである。